令和５年度あいちラーニング推進事業研究報告書

はじめに

本校は昨年度から２年間、愛知県教育委員会よりあいちラーニング推進事業西三南地区主管校の委嘱を受けました。この事業の目的は次のとおりです。「学習指導要領改訂や高大接続改革の趣旨を踏まえた探究的な学習を推進するために、１２校の主管校において、『主体的・対話的で深い学びの推進』をテーマとした研究開発を行い、その成果を広く普及・還元する。また、重点校は、主管校の研究成果を踏まえ、自校における『主体的・対話的で深い学び』による授業改善に推進する。」

本校が本研究の主管校として、昨年に続きこの一年に取り組んできた内容を以下にまとめました。

研究テーマと本年度の目標

研究 テーマ	生徒の有する資質・能力の一層の向上を図る「主体的・対話的で深い学び」のための授業改善の取組
本年度の 研究目標	（１）生徒の持つ資質・能力の一層の向上を図るため、「主体的・対話的で深い学び」の場となる授業の在り方について、全職員が理解を深めるとともに、各教科において授業改善に向けた取組を実践する。 （２）授業等におけるＩＣＴの効果的な活用方策について研究する。 （３）「指導と評価の一体化」を図るＰＤＣＡサイクルを活用した授業改善を通して、各教科において、「主体的・対話的で深い学び」の場となる授業を、効果的に実践できるマネジメント力を向上させる。

研究の実施内容

実施月日	内　　容
令和５年６月 20 日	・研究計画の提出
令和５年６月下旬	・教科主任会で研究計画の概要説明
令和５年６月 27 日	・第１回連絡協議会
令和５年 7～9 月	・第１回授業アンケートの実施
令和５年９月 22 日	・重点校公開授業視察（愛知県立安城東高等学校）
令和５年９月 26 日	・ICT 機器活用校内研修(全体講習)
令和５年 10 月５日	・ICT 機器活用校内研修(個別対応①)
令和５年 11 月６日	・重点校公開授業視察（愛知県立知立高等学校①(体育)）
令和５年 11 月 10 日	・研究授業・研究協議会
同　　上	・重点校公開授業視察（愛知県立知立高等学校②(英語)）
令和５年 11 月 13 日	・ICT 機器活用校内研修(個別対応②)
令和５年 11 月 14 日	・重点校公開授業視察（愛知県立碧南高等学校）
令和５年 11 月 17 日	・県外先進校への視察(滋賀県立河瀬中学校・高等学校)
同　　上	・重点校公開授業視察（愛知県立知立高等学校③(国語・数学・理科）
令和５年 11 月 29 日	・総合教育センターにて主管校合同研究成果発表会
令和５年 12 月６日	・重点校公開授業視察（愛知県立碧南工科高等学校）
令和５年 12 月７日	・ICT 機器活用校内研修(個別対応③)
令和５年 12 月８日	・重点校公開授業視察（愛知県立安城農林高等学校）
同　　上	・重点校公開授業視察（愛知県立刈谷東高等学校）
令和６年１月 17 日	・ICT 機器活用校内研修(個別対応④)
令和６年 １月 24 日	・講演会及び第２回連絡協議会
令和６年１月 31 日	・ICT 機器活用校内研修(個別対応⑤)
令和６年２月９日	・重点校公開授業視察(愛知県立刈谷工科高等学校）
令和６年２月 19 日	・学校関係者評価委員会で成果報告
令和６年３月上旬	・第２回授業アンケートの実施
令和６年３月下旬	・実施報告書提出、本校ホームページにて取組の公開

研究成果の評価及び普及・還元に関する実績

1　公開授業・研究協議

(1) 日　時：11 月 10 日（金）13:20～16:10

(2) 会　場：本校１年５，９組、２年４組（研究授業）
社会科教室、Ａ教室、Ｂ教室（研究協議）

(3) 参加者：愛知県内の高等学校から１２校１９名、愛知教育大学から１名、及び本校職員

(4) 日　程：

13:20～14:10　研究授業　日本史探究（２年４組）
保　　健（１年９組）
14:20～15:10　研究授業　家 庭 基 礎（１年５組）
15:20～15:35　研究協議　全　体　会　助言者による御助言・御指導
15:35～16:10　研究協議　分　科　会　指導者による説明と振り返り、質疑応答、助言者による御助言・御指導

(6) 研究授業・研究協議

ア　内容（方法）

日本史探究：「豊臣政権の土地・身分政策　対外政策と侵略戦争」
刀狩令と太閤検地の関係性および時代背景から秀吉の描いたヴィジョンを主体的に考察・推察し、教科書などの教材から具体的な事例を導き出し、適切に説明し発表する。（グループごとに考察・パワーポイントを使用しての発表）

保　　健：　安全な社会生活において、事故の現状と発生要因、交通事故防止の取り組み、安全な社会の形成について、理解することができるようにする。また、それに関わる事象や情報から問題点や課題を考察し、環境整備や地域の連携など、安全な社会生活の実現に向けてそれらの取り組みについての学習を主体的にできるようにし、成果を発表する。（グループごとに話し合い、ロイロノートを使用して発表）

家 庭 基 礎：　食の安全や食品の調理上の性質、食文化の継承を考慮した献立作成や調理計画、健康や環境に配慮した食生活について理解し、持続可能な食生活を営むために自己や家族の食事を工夫し、目的に応じた調理に必要な技術を身に付け、生活の充実向上を図るための課題を解決する力を身に付けさせる。（献立カード等の教材を用いてグループごとに話し合い、ロイロノートを使用して発表）

イ　まとめと課題

昨年に続き、今回の研究授業のテーマは、ＩＣＴを活用した「主体的・対話的で深い学びの授業実践とその方法等の共有とした。どの研究授業でもタブレットやプロジェクターの活用が見られ、ＩＣＴ機器の利用は一気に普及したと言える。また、生徒自身もタブレットを用いることで、より積極的に参加できるようになってきていることも窺える。

一方で、その効果的な運用方法については未だ試行錯誤の段階であり、明確な方針がない中、手探りで当たらざるを得ないことも多い。また、場合によってはＩＣＴ機器の利用が必ずしも有効とは限らない。そのような実情も踏まえると、ＩＣＴを活用すべき場面を適切に選び出し、効果的な運用を図る等の工夫と、それらのノウハウを広く共有していくことが今後の課題と言える。

2　県外視察

(1) 日　時：11 月 17 日（金）13:00～16:30

(2) 訪問先：滋賀県立河瀬中学校・高等学校

訪問先は中高一貫校であり、2022 年度学校情報化優良校の認定を日本教育工学協会より受けている。午後、授業を参観。ほとんどの授業でプロジェクターが使用されていた。尚、スクリーン等も各教室に備え付けてあるので、準備の手間なく授業を開始することができる。その他、生徒はタブレットを使って授業担当者とレポートなどのやり取りをしている、ということであった。

また、端末は各自購入なので、生徒に管理者権限も与え、パスワードの管理等も含め、個人に責任を持たせているとのことであった。学校の方針として、生徒に自由に使わせる事が大事であり、例え失敗したとしてもそれを経験させることが教育である、との言葉が強く印象に残った。

教員に対しては、ＩＣＴ機器の“最低限の”使用方法についての研修が行われており、全員が使えるように配慮されている。

生成 AI も、早速授業案作成に導入したり、推薦入試の面接での想定問答集の作成に使用している。

３　あいちラーニング推進事業主管校合同成果発表会

(1) 日　時：11 月 29 日（水）9:45～16:00

(2) 会　場：愛知県総合教育センター　講堂

西三南地区の主管校として、昨年からの取り組みの成果を、パワーポイントを使用し発表。本校における、ＩＣＴ機器を活用した授業の実践例を、資料や画像データを提示しながら、その成果や、残された課題など、持ち時間 20 分を使い説明した。

４　講演会

(1) 日　時：１月 24 日（水）14:00～15:30

(2) 会　場：本校会議室

(3) 講　師：愛知教育大学　教職キャリアセンター　准教授　中池　竜一　様

(4) 参加者：愛知県内の高等学校から１４校１７名及び本校職員

(5) 内　容：「『主体的・対話的で深い学び』の実践に向けたＩＣＴの効果的な活用」

(6) 概　要

「主体的・対話的で深い学び」の実践に向けてのＩＣＴの活用方法や、そのためのヒントやアイディアについての講演が行われた。教育に情報工学の考え方を取り入れた教育工学的な視点からの解説もあり、また講演自体も参加者がタブレットを持参し共有ファイルへ回答を書き込むなど、実際にＩＣＴ利用の有効性を追体験できるものであった。終了後のアンケートでも、先進的な取り組みを行っている学校の紹介例への驚きや、意見の共有やリアルタイムでの集約等、ＩＣＴ機器利用のメリットを知ることができた、など好意的な意見が多く寄せられた。

５　授業改善に向けた取組

(1) 授業アンケートの実施

ア　アンケートの実施方法

(ｱ) 時期：１学期・３学期の期末・学年末考査前後（年２回）

(ｲ) 実施者：授業を担当する職員

(ｳ) 実施方法：教科担任が、担当する科目から学級を抽出し、授業中に実施する。または、ロイロノートのアンケート機能を利用する。

(ｴ) アンケートの書式：昨年同様、統一した書式で実施する。

イ　アンケート結果の集約と分析

(ｱ) 各教科担任が実施し、アンケート結果を検証し今後の授業改善に役立てる。

(ｲ) 報告内容から参考になりそうな有益な情報を抜粋し、参考資料として配布し、成果の共有を図る。

(ｳ) 報告期限はそれぞれ終業式までとする。

ウ　本取組の評価と課題

生徒の学習の状況や成果について、アンケートを実施することで初めて見えてくることもあり、授業や指導の改善を図る一助になっている。一方、授業にＩＣＴを積極的に活用することで、主体的・対話的で深い学びにどうやって繋げるかという課題には、今後も取り組んでいく必要がある。

６　今後に向けて

「主体的・対話的で深い学び」の授業をいかに実践していくか、そのためにＩＣＴ機器をどう活用していくかについて、職員全体でその意義や方法を共有し、さらに進化させていきたい。そのためのヒントとして、今年度開催されたＩＣＴ研修の講師からの提案を以下に挙げる。

(1) 板書をデジタル化することでそれにかかる時間を削減し、その空いた分を詳しい説明や、課題に取り組むことに費やす。

(2) 生徒からの意見をデジタル化し、大量のデータの集約や開示をリアルタイムに行えるようにする。また、それらのデータを保存し、後から利用できるようにする。
(3) 文字だけでは伝わりにくい内容も理解しやすくなるよう、動画などの視覚情報や、音声などの聴覚情報なども活用する。